

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501590		
法人名	有限会社 ダイテン福祉サービス		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地 (電話番号)	〒802-0813 福岡県北九州市小倉南区東水町6番7号 (電話) 093-953-0650		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤(専任5人)	兼務 2 人 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	築	6年
建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日当たり		500 円	

(4) 利用者の概要(平成21年10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人おのクリニック	・かんざき歯科	・松井病院
---------	--------------	---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和気清麻呂の伝説で有名な足立山麓を見上げる住宅地の一角に、訪問介護と併設したグループホーム なかよしがある。「安心・信頼・満足」を理念の柱に掲げ、居宅介護の全てを知り尽くした代表が、心をこめて設立したホームは、職員のチームワークもしっかりしていて、安心感がある。利用者と職員は、ホーム南側の畑で野菜の苗の植え付けから、草取りをしながら、収穫等を経て料理の食材にし、食事するまでの長いプロセスをゆっくと、楽しんでいる。また、真夏以外は、車椅子の利用者も一緒に散歩するのが日課で、近所の方と会話する機会も多く、開設して6年目を迎え、地域との交流も活発である。管理者や職員は、運営推進会議や家族会を定期的に開催し、利用者や家族の要望や悩みを聴き、ホーム運営に出来るだけ反映していく工夫をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は「地域密着型サービスとしての理念」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「災害対策」「栄養摂取や水分確保の支援」の4件であった。地域密着型サービスとしての理念は、地域の中でその人らしく暮らし続けることを実践され、地域との関係性もできていく。他の3件については今後も引き続き改善に向けて取り組むことが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は会議で職員全員が意見を出し合い、管理者が取りまとめて作成している。職員は外部評価の意義を理解し、介護サービスの見直しの機会としてとらえ、評価結果については、回覧し、職員一人ひとりが目標を立て、改善に向けて努力している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員が参加し、ホームの現状や行事報告、質問等で終わることなく、身体拘束、日常生活自立支援事業、後期高齢者医療制度等、その時々話題性を持つテーマを、情報提供という形で説明したり、日本舞踊、尺八の演奏等で親しみを込めた交流を行い、大切な会議としてホーム運営を推進していくように工夫している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>なかよしこよし新聞を毎月発行し、家族に利用者の日々の暮らしぶりや健康状態を報告している。外部機関と内部の苦情受付窓口を掲示し、家族が安心して意見や心配事が相談できる環境である。また、運営推進会議や家族会に多数参加してもらい、管理者や職員と親しく話す機会を作ったり、家族会としてのホームに対する要望等を出してもらい、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、利用者と職員が広報誌を回覧したり、地域のお祭りや運動会、校区の中学生と合同での美化運動などの行事に積極的に参加している。地元のボランティアの受け入れや町内で手伝える行事に参加することで、地域との交流も密になり、散歩時に声をかけてもらったり、泊り旅行中にはホームの見守りしてくれるなど信頼関係も出来ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・信頼・満足」を理念に掲げ、利用者が住みなれた地域の中で安心した生活の継続、地域との関係性の継続を支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝、夕の申し送り時に全職員で理念を唱和し、日々の業務に理念が反映できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し昨年は組長を務め、地域のお祭りや運動会、校区の中学生との美化運動などに積極的に参加している。利用者と職員が広報を回覧したり、地域住民の方に運営推進会議に参加してもらうなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で検討し、管理者が集約し作成した。自己評価に取り組むことで、日々のケアを振り返り見直しの機会と捉え改善に取り組んでいる。また、評価結果報告書を玄関に設置し、誰でも閲覧できるようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員が参加し2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や行事報告に加え、身体拘束、権利擁護、後期高齢者医療制度についての情報提供を行っている。また、ホームでは日本舞踊、フラダンス、尺八演奏などを行い、楽しみながら地域と方々と交流ができるように工夫している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者ケア、介護保険制度に関しての相談や判断に迷う場合は、市の介護保険課や地域包括支援センターに相談できる関係ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての、資料やパンフレットを準備している。内部研修や運営推進会議で地域包括支援センターの方に、制度の説明をしてもらい理解を深め、必要な方には支援できるよう体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「なかよし新聞」を発行している。家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭管理は出納簿を確認してもらっている。利用者の緊急時や状態変化がある場合は、随時電話で報告をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議、家族会で意見や要望を伝えてもらっている。家族会で出された意見や、要望は運営に反映していくように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員とホームの内外で悩みや相談に応じ、ストレスケアを行うなど職員が働きやすい環境づくりに配慮している。やむを得ず職員が交代する場合は、引継ぎの期間を十分にとり利用者には不安を与えないよう努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、年齢、性別などを基準としていない。高齢者に対する基本的な接し方や協調性を大切に、意欲を持った人を優先し「公正な採用選考に向けて」を議題とした内部研修も行っている。職員一人ひとりのスキルアップや資格取得に向けての協力体制を整えている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとり組んでいる	高齢者の人権に関する外部研修への参加や内部での伝達講習などを行い、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内部、外部の研修に参加できる機会を確保している。特に人権、成年後見制度、認知症に関する研修に積極的に参加し、ホーム内で伝達講習を行い全員で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の交流会に参加したり、近隣のグループホームと相互訪問や見学学習などを通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後は他のグループホームと合同での研修会を企画している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居が可能で本人、家族が安心して入居できる体制を整えている。また、家族と共に見学してもらい、食事やお茶の時間を利用してホームの様子を見てもらっている。本人の状況に応じて、入院先や自宅を訪問し職員と徐々に馴染みながら、本人、家族が納得して利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝食の準備や買い物など、その時々状況に応じて利用者の力を発揮してもらえるよう工夫している。共に暮らす中で、利用者にいたわってもらいながら共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とゆっくり話せる機会を作り、希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、日々の行動や表情から汲み取るようにしている。生活歴や家族からの情報を得て、本人の希望や意向にそった暮らしをができるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、本人や家族の意見や要望を聴き、全職員で検討し介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回スタッフ会議を開催し3ヶ月毎のモニタリング、計画の見直しを行っている。利用者の状態が変化した際は、随時計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年1回、利用者、職員と共に1泊旅行を実施している。本人、家族の状況に応じて、通院介助や「県外の馴染みの場所に行きたい」との希望にも柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。運営推進会議を利用して地域との連携を深めるよう、ユニークな企画で楽しんでもらい、グループホームでのケアの経験や実績を活かし地域福祉に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。通院については家族同行が困難な場合は、職員が代行するなど柔軟に対応している。また、協力医療機関による往診が2週間に1度、歯科医の往診が週に1度あり適切な医療ができるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルケアに関しては、概ね説明はしている。現状としては、終末期のあり方について病院を希望される。本人、家族が多く、ターミナルの具体的な方針はできていない。		事業所としてのターミナルケアの指針を作成し、本人、家族と方針を共有し、安心と納得を得られるよう取り組むことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、利用者の誇りや尊厳を損ねないように言葉かけに注意している。個人ファイルや記録など、他者の目に触れないよう事務所に保管、管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。起床、散歩、外出、買い物など利用者の状態や希望にそった個別性のある支援を行い、利用者のペースを大切にケアに取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や配膳、盛り付けなど利用者と共にしたり、利用者の中には自らエプロンをつけ厨房に立ち、手伝いをされる方もいて、ホームの庭で栽培したナス、トマト、春菊などの野菜を使い一緒に調理し、職員も同じものを食べながら楽しく食事できるよう努力している。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、利用者の希望や状況に応じて毎日入浴できるようにしている。入浴拒否される方は、無理強いせず様子を見ながら言葉かけを工夫したり、不眠が続く場合などは、就寝前に入浴していただくなど、一人ひとりにあった支援をしている。また、浴室からは専用の庭が見え、露天風呂のような雰囲気が味わえるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活層を活かし、庭木の剪定、畑の種まき、配膳の盛り付け、パン作り、新聞を取に行くなど力を発揮してもらった場面を作っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や天候に応じて、日常的に散歩を行っている。週2回の買い物や外食、ドライブ、年1回の1泊旅行などに出かけている。また、近隣の方との信頼関係ができており、旅行中の留守番や散歩時の見守りなどの協力が得られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけていない。帰宅願望の強い方や外出しそうな様子の方があれば、一緒に外出し、納得するまで時間をかけて付き添うなど鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や地域の方の協力を得て、防災、消火訓練を実施している。また、救命救急講習を開催し事故防止、事故対応への理解を深めている。		災害時に備えて、飲料水や非常食、毛布等の備品の準備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の嗜好や医療情報、主治医の指示などを参考に1日1300～1500calを目標にしている。食事は毎回記録に残し情報を共有している。		水分不足が起こらないよう、一人ひとりの水分摂取量の記録を残しておくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井には明かり取りが設けてあり、光の調整ができるようになっている。フロアには季節に応じて、利用者の作品や写真が飾られている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、装飾品、写真など馴染みのものを持ち込んでもらい、利用者が居心地良く暮らせるように配慮している。		